STUDENT LIFE

週刊NY生活・アメリカの学校紹介と学生ライフのページ

1学期終業式

NJ日本人学校

楽しい思い出を発表

一学期終了に際してみんなの前で思い出などを紹介する児童・生徒たち

ニュージャージー日本人学校（本荘真校長）は、11日に1学期終業式を行った。はじめに校長先生から、学校生活の中で、普段の授業や校内行事「夏まつり」の様子から伺えた子どもたちの持てる力やたくさんの頑張りを誉めた後に、もう少し挨拶を頑張って欲しいという話があった。最近2年生が大きな声で全校児童・生徒に挨拶する姿を例にし、「あのようにできることを期待している」と述べ、2年生もその場でお手本となる挨拶を披露した。

次に、初等部・中等部の各学年から代表が1学期の振り返りを発表した。それぞれ、算数、ESL（アメリカ人教師による英語の授業）・英検への取り組みなど、各教科の頑張りや努力する大切さを伝えた。中等部生徒は、上級生としての責任感や期末試験などの定期試験への取り組み方、ボストン宿泊体験学習から学んだことや楽しい思い出などを発表した。代表者の中には、この終業式を最後に日本へ本帰国する児童・生徒もおり、長年通ったNJ校への思い、仲間、友だち、後輩へ伝えたい楽しかったこと、アメリカ社会で体験できたことなどを話した。日本に帰国してからはアメリカでの体験を生かしていきたいと締めくくった。

東京都立西高等学校同窓会米国支部
同窓生会員募集
nishi-doso-usa@hotmail.com

公立校で携帯電話禁止

今秋実施に向け準備開始

NY市公立学校は、生徒が授業時間中に携帯電話を使用することを禁止する「教室内携帯電話禁止法」の今秋実施に向けて準備を進めている。

キャシー・ホウクル州知事とNY市公立学校のメリッサ・アビレス＝ラモス理事長は2日、教師、管理者、生徒らと座談会を開き、同法とその実施について話し合った。ホウクル知事は5月、NY州のすべての公立学校に適用されるこの新方針を発表。教室での携帯電話の影響について関係者と話し合い、報告書『More Learning, Less Scrolling：（注意散漫のない学校づくり）を制作。12年生までの生徒がいる学校は、8月8日までに実施計画を準備することが義務付けられている。報告書は、10代の若者の電話使用に関する外科医の統計を引用。アメリカのティーンエイジャーの95％がスマートフォンを持っており、1日平均250通の通知を受け取っていることを強調している。特に学校でのスマホ使用の増加は、注意力、情報保持力、エネルギーレベルを損なう可能性がある。ホウクル知事、学校指導者、州議会議員は、この新しい法律が公立学校での学習を改善することを願っている。Distraction-Free（注意力散漫防止）に関する詳細はホウクル知事が立ち上げたウェブサイト https://www.ny.gov/programs/distraction-free-schools-implementation-resources を参照する。

日本財団が奨学金

対象は日系の学生

応募締め切り迫る

日本財団は5月19日より2025年度日本財団・日系スカラーシップ「夢の実現プロジェクト」の募集を開始している。締め切りが7月31日と間近に迫っているが、将来の日本留学の参考になるため、概要を紹介する。

期間は最大5年まで、日本への渡航費用、学費、生活費を年間30人の日系人を対象に毎年実施している。留学先は各応募者本人が準備することが条件。

日本財団日系スカラーシップとは、居住国と日本との間の理解促進や居住国・地域社会の発展に貢献するための具体的な計画や夢を持つ若い日系人に対し、その実現のために日本留学の機会を与えるための奨学金プログラム。

募集人数は30名程度。募集期間は2025年5月19日～7月31日。選考方法は1次選考（8月下旬）、書類審査、2次選考（9月下旬～10月上旬）面接、最終合否決定10月末。

留学生への支給内容＝往復航空運賃、受験料、入学金、授業料等学校に支払う経費実費、生活費・月額14万円。住居費実費（上限月額5万円）、敷金・礼金（上限2万円）、通学定期代、医療保険（共済）費等、集合研修会費など。

応募方法・書類についての詳細はウェブサイト https://jadesas.or.jp/jp/scholar_entry_agreement/ 参照。

週刊NY生活　教育なんでも相談室

現地校から日本の大学を受験するには

フレンズ帰国生海外赴任サポート　**岩上友恵 相談員**

滞在歴と滞在時の子供の年齢：米ニューヨーク・サンディエゴ4年、長女14～18歳

Q　現在、息子がハイスクール10年生に在籍しています。卒業後に帰国して日本の大学を受験したいと考えています。今からどのような準備が必要か教えてください。

A　10年生となると、ハイスクール2年となり学校生活に慣れて楽しくなってくる頃ですね。この時期から日本での大学受験に向けて、計画的に準備を進めましょう。

日本の国立大学、私立大学では、外国学校出身者特別選抜として帰国生のための入試を実施している学部・学科があります。試験内容は大学によってさまざまですが、大まかなスケジュール、ハイスクール在学中にするべきことは変わりません。まず、スケジュールから整理します。

アメリカのハイスクールを卒業するのが6月となります。一番早い大学で7月初旬から出願が始まり、9月～12月にかけて私立大学の入試、年明けの1月～2月に国立大学の入試が行われます。帰国は卒業後、なるべく早い時期をお勧めします。帰国後は、帰国生クラスのある大学受験塾で入試対策をするのが一般的です。こうした塾の中には、保護者が帰国できない場合に備え、寮を完備しているところもあります。ほとんどの大学で出願時に提出する「志望理由書」もしっかり準備する必要があるため、早めに受験モードに入るようにします。

次に、今アメリカ滞在中にするべきこと。10年生にとって大学受験はまだ先です。まずは現地校の勉強をしっかりやることです。授業も難化し単位数が増えて忙しくなりますが、少しでもいい成績を目指したいものです。出願時に学校成績の提出を求める大学もありますし、成績優秀者で表彰されれば活動実績としてアピールできます。日本の大学で何を学びたいかが明確になってくるという意味でも大切です。

学校のクラブやボランティア活動などにも積極的に参加することをおすすめします。自分自身の経験を広げていくことは小論文や面接でも役立ちます。私立大学の入試では活動報告書を求めるところも多いのでぜひ参加しましょう。

そして、TOEFL、SATの受験です。TOEFLはほとんどの大学でスコアの提出が必須となります。SATは、滞在国の統一試験のスコア提出を求める大学の場合に必要です。どちらも、10年生の後半くらいから対策を始めると安心です。日系の大手塾に通塾したり、オンラインの塾もあるので自分にあったやり方で進めましょう。TOEFLもSATも、いつ最初の受験をするかは個人差がありますが、計画的に受験して、12年生の間にベストスコアを出せるようにしたいです。英検は、準1級を確実に取得しておきましょう。

もう一つ、学部学科問わず入試で課されるのが日本語による小論文です。といっても、今から小論文の練習をする必要はありません。まずは読書を通して語彙を増やし、日本語力の向上を意識すること。現地校の勉強や活動から自分の中の知識を深めていくことが今は大事です。

そして、日本の大学の合同説明会や、塾主催の大学入試セミナーに必ず参加しましょう。大学の担当者の方から実際にお話が聞けるチャンスです。入試については、毎年何らかの変更点があるので情報収集は欠かせません。

どの大学を受けるにしても、「海外での経験をふまえて、日本で何を学びたいのか、それを自分の将来にどうつなげていきたいか」が問われます。

最も多感な時期をアメリカの学校で過ごす経験は、ご子息にとって貴重な財産です。卒業までさまざまなことを吸収しながら、来る大学受験に向けて準備なさってください。

「フレンズ帰国生海外赴任サポート」では、面談・電話・メールにて相談を承っています。帰国前・帰国後の心配事など、同じように海外で子育てを経験したスタッフが丁寧に対応いたしますので、ぜひご利用ください。

本欄への相談は
フレンズ帰国生海外赴任サポート
● ホームページから
http://fkikoku.sun.bindcloud.jp/
1983年10月設立。海外在住経験のある母親たちのボランティア団体。海外赴任のアドバイス、帰国子女入試・編入など、海外生活教育相談を中心に活動している。